

巻 頭 言

平成20年に、「学習開発研究」から「学習開発学研究」へと名を改め、5年の歳月が経った。情報化とともに急速な変化を遂げている現代、5年はりっぱな一昔といえるだろう。この間、本講座の研究理念である「学習」「教育」「国際性」「発達」をより鮮明にして、「学び」のあり方を情報発信し、新しい学習科学の確立に努めてきたつもりである。

昨年3月には、未曾有の災害に直面し、「学び」が何に応えるものであるのか、「学び」が真の「幸せな生」と対峙できるのか、真摯に問い続けることがこれまで以上に求められると、自らに課題を課した。これは決して短期間に解決できる課題ではなく、これからも常に問い続けねばならない課題である。

その後、東日本大震災で何が起きたのかの実態が少しずつ明らかになり、現実には役に立てられなかったさまざま科学技術や学術的知識のありようを見るにつけ、学びにおける理論と実践の融合を目指した学習開発学の方向の正しさを再確認することができたように思える。しかし、東日本大震災からの復興の歩みは遅く、また、新たな問題が浮かび上がってきている。同じように、学びをとりまく環境もまた変化しつつあり、新たな学びのあり方を探求し続けなくてはならない。

昨年3月に、自らに課した課題は、真摯に問い続けることであった。今回の学習開発学研究で、理論と実践の融合を目指し、真の「幸せな生」と対峙できるのか、真摯に問い続けた学びの姿を少しでも見ていただけるならば、次の歩みの励みにすることができるだろう。

この研究紀要や編集主体の学習開発学講座の発展には、多くの方々のご指導が必要である。広くご意見、ご批判を賜れば幸いである。

平成24年3月

広島大学大学院教育学研究科
学習開発学講座主任 井上 弥